

「200年経っても色褪せない」天才作家による
人間ドラマの傑作 最新訳

ジェーン・オースティン

ノーサンガー僧院

2026年6月2日発行

株式会社あさ出版(代表取締役:田賀井弘毅、所在地:東京都豊島区)は
ジェーン・オースティン 著 パーカー敬子 翻訳『ノーサンガー僧院』を
2026年6月2日(火)に刊行いたします。

オースティンの傑作の中で初期に出版されたもの



近代イギリス長編小説の頂点とうたわれるジェーン・オースティンの6作品のうち、初期に執筆されたもの(出版は著者の没後)。ゴシック小説の影響を受けた若い女性キャサリン・モランドの成長物語で、文学に熱中する自身の姿を投影し現実との違いを描く。

タイトル:ノーサンガー僧院

著者:ジェーン・オースティン 翻訳:パーカー敬子 ページ数:264ページ

ISBN:978-4-86667-834-4 価格:2,200円(10%税込) 発行日:2026年6月2日

【本書の構成】

登場人物、全三十一章、訳者あとがき

【翻訳者プロフィール】 パーカー敬子(Keiko Parker)

1957年東京女子大学文学部英米文学科卒業、カナダに渡る。1964年にトロント王立音楽院よりARCT(Associate of the Royal Conservatory of Toronto)の教師資格を得て、46年間音楽理論を主として教授。2016年に同音楽院より第一回Teacher of Distinction賞を受賞。1950年代後期よりジェーン・オースティン研究を始め、1981年にJane Austen Society of North America(JASNA)に入会。バンクーバー支部長を務め、2007年バンクーバー市で開催された年例会の委員長を務める。1993年カナダ、バンクーバー市のUniversity of British Columbia大学院English Departmentより修士号を取得。1993年から2004年までShakespeare Society of Vancouverの月刊Newsletterの副編集長。2015年より2022年まで英語圏最大のエッセイコンクールJASNA Essay Contestの審査員の一人。1998年よりバンクーバー近辺の日系シニアの為に「音楽の会」(コロナ禍で休会中)を、また2011年からは「ジェーン・オースティンを英語で読む会」を主催、現在に至る。訳書にオースティン作の『エマ』、『説得』、『マンスフィールド荘園』(いずれも近代文藝社)、『誇りと偏見』、『理性と感性』(あさ出版)がある。

【好評既刊】

『誇りと偏見』

2020年5月27日発行
9784866672021



『理性と感性』

2024年5月14日発行
9784866676764



書評・著者インタビュー等のご検討をいただければ幸いです。情報掲載、画像提供の問い合わせ
古垣(フルガキ) TEL:03-3983-3225 090-4424-6911 furugaki@asa21.com
株式会社あさ出版 東京都豊島区南池袋2-9-9 第一池袋ホワイトビル6階